



今日のキーワード 注目される『フードテック』への取り組み

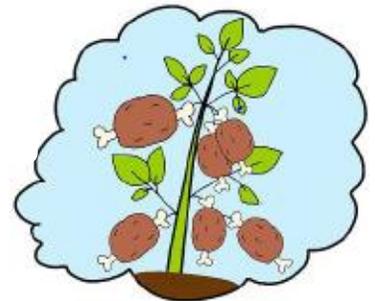
『フードテック』とは、食品関連サービスとITを融合した、新しい分野を言います。具体的には、植物由来の代替肉や、ITを利用した調理器具、食品のデリバリーサービスなど、「食」に関連するさまざまな領域にわたります。『フードテック』は、世界の人口増に伴う食料不足や環境破壊、人手不足問題などの解決に向けて期待できる技術として注目されており、国内外を問わず多くの企業が取り組みを行っています。

ポイント1 様々な分野で広がる『フードテック』

- テクノロジーで「食」が抱えるあらゆる課題を解決しようとする『フードテック』は、世界の人口増を受けて深刻化する食糧問題などを背景に、生産から流通まで様々な分野で取り組みが行われています。具体的には、完全栄養食や植物由来の代替肉などの「次世代フード」、個人に合わせた料理レシピやそれと連動するスマート調理器具、嗜好に合った食材が自宅に届くミールキットや料理宅配などのデリバリーサービス、人手不足問題を解消するロボット技術、IoT（モノのインターネット）やAI（人工知能）を活用した植物工場など農業に関する「アグリテック」などがあります。

ポイント2 日本の大手企業も相次ぎ参入

- ビジネスチャンスを見据え、日本企業も『フードテック』に積極的に取り組んでいます。例えば、食材を肉から植物に変えることにより、環境や健康にも効果が期待できる代替肉については、従前よりマルコメなどから大豆を使ったハンバーグなどが市販されていますが、伊藤ハムが昨年秋に参入したほか、日本ハムも今年3月に家庭向けの参入が予定されています。
- 三菱商事は、NTTや食品卸大手の三菱食品などと、流通構造の課題解決を目指して新システムを共同開発しています。ローソンなどが持つ膨大なデータを基に商品の需要を予測して、食品メーカーや卸、小売りの仕入れを減らし、食品ロスの軽減に取り組んでいます。



『フードテック』

今後の展開 『フードテック』のさらなる発展が期待される

- 国連のSDGs（持続可能な開発目標）においては、2030年までに小売りや消費における、世界全体の一人あたりの食料廃棄を半減させ、収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける食品ロスを減少させるとの目標が掲げられています。
- 世界が近い将来直面する、人口増加による食糧危機、環境破壊、人手不足といった課題の解決に向けて、様々な分野で日本企業が積極的に取り組むことにより、『フードテック』がさらに発展することが期待されます。

※個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

ここも
チェック!

2020年 1月31日 消費税引き上げが『中食』の伸びを加速

2019年10月18日 人気高まる植物由来の『代替肉』

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。